

2023 年度乳の学術研究「牛乳食育」指定研究

酪農教育ファームにおける新たな取り組みの実践的な提案

ー自己のキャリア教育や SDGs の視点からー

研究分野：教育学、キャリア教育、道徳教育

概要：酪農教育ファームがわが国でスタートして20数年が経過している。およそ20年間、酪農教育ファームは「食と命の教育」として発展してきた。一方、国では、キャリア教育の充実が言われている。こうした中で、酪農の活動とSDGsの関連の強さが言われている。そこで、SDGsの取り組みを意識しながら酪農を継続している酪農家の生きざま、働くさまを酪農教育ファームの一環として小学生が学ぶ場をつくる試みを行う中で、小学生が働くことや自らのキャリアを考える学びのコンテンツの開発を行った。このコンテンツを通して、特別活動や道徳教育の充実を図る可能性が示唆された。

キーワード：消費者意識、生産者の意識、キャリア計画

大妻女子大学家政学部児童学科 理科教育研究室

研究代表者 石井雅幸

研究分担者 藤本 勇二（武庫川女子大学教育学部 准教授）

※本報告の全文は、基本的に研究分担者の藤本勇二が記述したものである。

目次

第1章 問題の所在 研究の目的と方向性.....	2
第1節 問題の所在	2
第2節 研究の目的と研究の全体的な方向性	3
第2章 コンテンツの作成	4
第3章 質問紙の作成.....	7
第1節 質問項目の作成	7
第2節 分析結果と考察	9
第4章 ワークシートの作成.....	13
第5章 全体結論及び今後の課題	20
引用・参考文献	21
資料.....	22
資料1 指導案.....	22
資料2 質問紙.....	26
資料3 ワークシート	27
資料4 授業に使った資料.....	31

酪農教育ファームにおける新たな取り組みの実践的な提案

ー自己のキャリア教育や SDGs の視点からー

第1章 問題の所在 研究の目的と方向性

第1節 問題の所在

日本社会の構造的な変化や流動的な社会環境を背景に、日本の児童生徒は「自分の将来のために学習を行う意識が国際的にみて低く、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況がある。また、今の子供には、身体的には成熟傾向が早まっているにも関わらず精神的・社会的自立が遅れる傾向があることや、勤労観・職業観の未熟さなど、発達上の課題も指摘されている。」⁽¹⁾といった問題があり、一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア発達を促すためのキャリア教育の推進・充実への期待が高まっている。今次改訂の小学校学習指導要領解説総則編においては、「(3) キャリア教育の充実（第1章第4の1の(3)児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」⁽²⁾と示され、キャリア教育の充実を図ることを示している。さらに、キャリア教育は、「児童に将来の生活や社会、職業などとの関連を意識させる学習である」⁽³⁾このことから、その実施に当たっては、職場見学や社会人講話などの機会の確保が不可欠となる。キャリア教育において「社会に開かれた教育課程」を授業実践において実現する「働く人」との交流の場が大切となる。

キャリア教育の視点から酪農教育ファームは、「働く人」との交流の場として大いに期待できる。しかしながら石井(2021)が、SDGs の視点から酪農教育ファームの活動を見直し、整理を行った結果、酪農教育ファームが児童に提供してきた「食やしごと、いのちの大切さ」といったこれまでの教育的な価値について、「酪農家の仕事の価値」に係る側面について、「酪農教育ファームが児童の学びと関係するとは考えていない酪農家が多い」といった結論を得ている。さらに、酪農教育ファームが児童に提供してきた「しごと」は、「乳牛を世話し、生乳を生産すること」を指し、酪農家としての経済活動や経営努力には十分に触れていない点も酪農教育ファームの価値を最大化することにつながっていない課題である。

そこで、筆者らは、2022年度の研究において、酪農家の仕事への姿勢の教育的な価値に着目した。コンテンツ開発においては、キャリア発達を支援する資質・能力の育成を図っていく取組を目指して、特別活動の学級活動(3)を要としながら道徳科や社会科における学習とつなげ、教科等横断的に授業実践で取り上げた。その結果、酪農家の経営努力に触れることによって児童が自らのキャリアを考えることができ、食育としての価値が生まれる可

能性が示唆された。

第2節 研究の目的と研究の全体的な方向性

本研究では、2022年度の成果を踏まえて、キャリア教育の視点から、酪農家の仕事に発展的に結びつけやすい小学校第5学年社会科「食料生産」と学活（2）、道徳、学活（3）との教科等横断的な指導を試みるコンテンツの開発を行う。さらに、酪農家の仕事が食育の実現につながるかを検討する。

このコンテンツによる児童の変容を明らかにするために、質問紙とワークシートの作成を行い、食選択に関する思考や態度の側面とキャリア教育の側面からコンテンツの有効性を検証する。

以下、コンテンツ作成の方法並びに、作成したコンテンツに関しては第2章に示す。また、開発したコンテンツの有効性を検証するための質問紙作成方法、その結果に関しては、第3章に述べる。さらに、児童用のワークシートの作成方法並びにその結果に関しては第4章に示す。

第2章 コンテンツの作成

第1節 学習指導要領との関連

キャリア教育を学活（２）、学活（３）、道徳、社会科との教科等横断的な指導を試みる。第５学年社会科「食料生産」に、本プログラムを位置付けた意図については、前章で触れたとおりである。

学活（２）、（３）、道徳に本プログラムを位置付けた意図を以下に述べる。

学級活動（２）は、「学級活動「(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」に関する内容は、児童一人一人が、自らの学習や生活の目標を決めて、その実現に向けて取り組めるものでなければならない。そして、自分から進んで学び、自分の生活上の課題を見いだし、よりよく解決するための活動である。」^{（４）}とされている。学級活動における食育については、学級活動（２）の「食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成」として指導することになる。ここでは望ましい食習慣の形成を図ることの大切さを理解することを通して、主体的に望ましい食習慣や食生活を実現しようとする態度を養うことにつながる指導を実現する。

学活（３）は、「学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」この内容は、個々の児童の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践にまでつなげることをねらいとしている。」^{（５）}とされている。学級活動（３）においては、以下のような資質・能力を育成することが例示としてあげられており、本研究のねらいに合致する。^{（６）}

○ 働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要なことを理解し、行動の在り方を身に付けるようにする。

○ 自己の生活や学習の課題について考え、自己への理解を深め、よりよく生きるための課題を見いだし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動することができるようにする。

○ 現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら主体的に行動しようとする態度を養う。

道徳では、内容項目 14 勤労、公共の精神に、キャリア教育として本実践を位置付ける。第５学年及び第６学年の段階においては、勤労を尊ぶ心を育てながら、働くことの意義を理

解して社会の役に立つことができるようにする必要がある。「働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうことを通して、その意義や役割を理解し、それを現在の自分が学んでいることとのつながりで捉えることは、将来の社会的自立に向けて勤労観や職業観を育む上でも重要なことである。」⁷⁾とされている。

食育の側面からは、感謝の心（食べ物を大事にし、食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。）こと、人の食生活が自然の恩恵の上に成り立っていること、また、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに対して感謝する心が大切であるという視点を実現することをめざす。人々の生活は昔から動植物などの自然の恩恵に支えられて成り立っていることや生産・流通・消費など食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに気づき、環境保全や食品ロスの視点も含めて、感謝の気持ちや食べ物を大事にする心を育むことが求められている。

キャリア教育の側面からは、「なりたい自分」を見定め、自ら目標を決めて実践することにより、働くことや社会に奉仕することの意義の理解は大切であるが、このことは一律に望ましいとされる勤労観・職業観を教え込むことではない。身近な人から集団へと人との関わりを広げながら、児童一人一人が働く意義や目的を探究し、みんなのために働くことの意義を理解し、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育成することが重要である学校生活をよりよくするために参画する態度や、将来にわたる社会参画意識の醸成につなげることを意図している。

以上のことから、本研究では、小学校第5学年の学習に、教科等横断的な指導を構想し、キャリア教育の視点を取り入れた活動を位置付け、授業を試みた。

第2節 コンテンツの概要

2022年の研究において、働くことの意味を考えることを通じて食への感謝の気持ちを育てる部分について十分に実現できなかった。そこで、今回は、給食の食材はどこから来るかを学活（2）で取り上げて、食に向き合う場を設定するように指導計画を変更した。

働くことの意味を考える際に、酪農家の話を直接聞くことに意味があることが2022年の研究から明らかになった。2022年は、学級活動（3）の時間に使用した教材が、養豚農家と酪農家から事前に取材し作成した動画であった。2022年は養豚家と酪農家の共通点を導き出しながら働くことの意味を考える構成にしたが、児童が自分のこととして向き合う時間を十分に設定できずに、深まりが弱かったので、今回は酪農家だけにする。さらに、酪農家と直接やり取りができるオンラインを活用する。

以上の改善点を踏まえて、次のように授業を構成した。

（1）授業構成

1 時間目では、食への理解を自覚するために学級活動（2）の時間を設定した。体がよりよく成長するためには、調和のとれた食事、適度な運動、休養・睡眠が必要であることを理解した上で、どのような食生活を送ったらよいかを考え、判断することができる授業構成とした。授業の終末に自分の生活をよりよくしていこうとする意欲を育てるために、めあてを「何を」「どのように」の視点から具体的に立てさせる。次の時間は、給食に毎日出てくる牛乳を生産している酪農家の仕事について学習することを紹介するようにつないだ。

2 時間目では、酪農を取り巻く現状と酪農家の取組を通じて食料の安定確保について考える。社会科「日本の食料生産の学習」を振り返り、牛乳がなくなると困るかについて話し合う。次に、酪農が続けられない状況について話し合うように進めた。千葉県館山市にある須藤牧場の経費からエサ代の高騰、生乳販売で人件費が出ない現状に触れた児童が経営努力の姿に触れる活動では、酪農家だったらどんな工夫をするかを考えた。

3 時間目は、酪農家の働きがいや酪農を続ける思いに気づき、働くことの意味について的心情を深める。どうして働くのかを交流した後、酪農家の仕事への思いを話し合うようにした。須藤さんは、なぜ酪農を続けているか考えるようにした。「動物と一緒にいることが好き」「食べ物のことを考えてほしい」に触れ、酪農家に質問することで大変な状況の中でやり続ける思いに目を向けられるようにした。

4 時間目は、食や命にかかわる人の働く姿から私の夢を描く時間とした。酪農家梶木氏の働くことに対する思いやこれまでの学習をふまえて、働くことは誰かのためになることであることに気づき、これからどんな目標をもって生活していくかの目標をもつことができる将来の夢を交流する。「今日は、5年生のみなさんが自分が働くことを考えてもらうために毎日給食に出てくる牛乳を生産している酪農家と話し合いましょう」として梶木氏がどのような思いをもって働いているかを考える。FM ラジオのパーソナリティのことを通じて、十勝の魅力を伝えたいという梶木さんの思いに触れる。働くプロフェッショナルについて考える時間とした。なお、作成した指導案は巻末の資料1に示す。

第3章 質問紙の作成

第1節 質問項目の作成

本質問紙は、第2章に記したコンテンツの有効性を検討することを目的とし、食習慣と働くことの意味について思考や態度の変容を見とることができるものにした。

食習慣に関しては、「酪農と自分とのつながり」「栄養・健康」「感謝」「生産・流通」「消費行動」の側面から質問項目を設定した。酪農と自分とのつながり（1から5の設問）、栄養・健康（6から8の設問）、感謝（9から12の設問）、生産・流通（13の設問）、消費行動（14・15の設問）とした。

表 19 質問項目

- 1 牛乳を生産する仕事は、私たちとつながりが深い。
- 2 酪農家は、牛乳を飲む人のことを考えている。
- 3 酪農は、私たちに必要な仕事だ。
- 4 酪農家は、牛を飼い続けるために工夫や努力をしている。
- 5 酪農の仕事は、人のためになる。
- 6 給食は、好ききらいしないで何でも食べている。
- 7 給食は、栄養のバランスがよい食事である。
- 8 牛乳を飲むことが大切だ。
- 9 給食は、いつも残さず食べている。
- 10 食べ物を大切に思っけて食べている。
- 11 給食を支えてくださる方々（生産者や調理員さんなど）のことを考えて食べている。
- 12 給食を残すときに、もったいないと思う。
- 13 食事の時に食べ物がどこで育ち、どのように運ばれてきたのかを考える。
- 14 食べることができる量を買う。
- 15 地元で生産されたものを買う。

働くことの意味については、宮田（2012）¹⁸の研究をもとに設定した。宮田（2012）は、仕事価値について自由記述の内容から、「役立ち」、「興味」、「自己実現」、「適性」、「手段」、「無答」の6つに分類している。「役立ち」は、「人を喜ばせたい」「人を助けたい」といった仕事を通じて、他者への役立ちを示した回答である。「興味」は、自分の希望した「仕事が好き」、あるいは、その仕事に「携わりたい」という、仕事そのものへの興味や関心を示した回答である。「自己実現」は、仕事を通して「有名になる」「活躍したい」といった自己に目

を向けた回答である。「適性」は、その仕事が「自分に合っている」「うまくできる」といった自分と仕事とのマッチングを児童なりに意識した回答である。「手段」は、「お金を儲けたい」「家族を助けたい」と仕事内容とは別の目的を含んだ回答である。

2022年の研究において小学校5年生が回答した働くことの価値をIBM社製 SPSSによって分析後、役立ち（1 から 5 の設問）、興味（6 の設問）、自己実現（7 から 10 の設問）、適正（11 の設問）、手段（12 から 14 の設問）とした。

表 19 質問項目

- 1 家族のため
- 2 他の人に頼られる
- 3 国のため
- 4 恩返し
- 5 人のため
- 6 その仕事が好き
- 7 自分のため
- 8 いきがいになる
- 9 よい大人になる
- 10 挑戦するため
- 11 自分に合っている
- 12 お金のため
- 13 生きるため
- 14 生活のため

2 調査の実施と分析方法

本節の1で作成した質問項目を用いて、以下のように調査を実施し、目的に従って分析を行った。

①調査対象

兵庫県N立N小学校 第5学年2学級 60名

2組の教諭（教職2年目）が、2学級の授業を別の時間に担当した。4時間目の学活（3）の時間は、2クラス合同で行い、2組の教諭が担当した。

なお、調査を実施するにあたり、調査対象のN小学校の学校長並びに学級担任の許可を取り、知り得た情報は本研究以外に使用しないこと、ならびに個人が特定されないように氏名を記号化した。

②目的

本研究において作成したコンテンツの有効性を検討する。

③方法

授業実施前と実施後、さらに 1 か月後の計 3 回、開発した質問紙を用いてアンケート調査を行った。

④質問事項

食習慣 15 項目、働くことの意味 14 項目から成る質問紙を使用した。

事前、事後、1 か月後と同じ質問紙を使用した。

なお、使用した質問紙は巻末の資料 2 に示す。

⑤回答方法

4 件法を使用する。

反応尺度は、「1.かなり当てはまる」「2.ある程度当てはまる」「3.あまり当てはまらない」「4.当てはまらない」で問うた。

⑥分析方法

授業実施前と実施後の各調査項目の平均値を用いて、t 検定を行った。有意水準は 0.05 以下とする。

⑦分析スケジュール

内容	実施日時
質問紙による事前調査 5 年生 2 クラス 60 名	12 月第 1 週
1 時間目 給食の食材はどこから：学活（2）	1 月 16 日（火）2 時間目 3 時間目
2 時間目 酪農の現状：社会科	1 月 17 日（水）1 時間目 2 時間目
3 時間目 働く意味：道徳	1 月 18 日（木）1 時間目 1 月 19 日（金）1 時間目
4 時間目 私が働くこと：学活（3） 2 クラス合同	1 月 26 日（金）2 時間目
質問紙による事後調査① 授業後	1 月 30 日（月）
質問紙による事後調査②	2 月 20 日（火）

第 2 節 分析結果と考察

第 2 節で作成したコンテンツ実施前と実施後の食選択の変化について、t 検定を用いて分析を行った。その結果を、表 20 と表 21 に示す。

表 20 食習慣

質問項目			度数	平均値	p 値	判定
1 牛乳を生産する仕事は、私たちとつながりが深い。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.15 3.42	0.129	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.86 3.17	0.165	ns
2 酪農家は、牛乳を飲む人のことを考えている。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.73 3.80	0.600	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.72 3.79	0.628	ns
3 酪農は、私たちに必要な仕事だ。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.62 3.77	0.288	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.28 3.61	0.066	ns
4 酪農家は、牛を飼い続けるために工夫や努力をしている。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.5 3.84	0.065	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.83 3.89	0.487	ns
5 酪農の仕事は、人のためになる。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.65 3.58	0.629	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.76 3.75	0.950	ns
6 給食は、好ききらいしないで何でも食べている。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.92 3.15	0.312	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3 3.07	0.786	ns
7 給食は、栄養のバランスがよい食事である。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.88 3.81	0.509	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.86 3.85	0.958	ns
8 牛乳を飲むことが大切だ。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.66 3.58	0.463	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.48 3.68	0.262	ns
9 給食は、いつも残さず食べている。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.23 3.46	0.246	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.83 2.93	0.685	ns
10 食べ物を大切に思っ食べている。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.54 3.50	0.839	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.55 3.32	0.148	ns
11 給食を支えてくださる方々（生産者や調理員さんなど）のことを考えて食べている。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.85 3.04	0.407	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.79 2.89	0.631	ns
12 給食を残すときに、もったいないと思	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.65 3.85	0.246	ns

う。	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.72 3.54	0.294	ns
13 食事の時に食べ物がどこで育ち、どのよう に運ばれてきたのかを考える。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.15 2.35	0.334	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.31 2.5	0.388	ns
14 食べることができる量を買う。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.27 3.35	0.734	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.48 3.61	0.424	ns
15 地元で生産されたものを買う。	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.54 2.58	0.857	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.44 2.82	0.076	ns

表 21 働くことの意味

質問項目			度数	平均値	p 値	判定
1 家族のため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.54 3.27	0.268	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.313. 43	0.624	ns
2 他の人に頼られる	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.54 2.65	0.674	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.48 2.60	0.609	ns
3 国のため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.23 2.5	0.278	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	2.55 2.93	0.097	ns
4 恩返し	1 組	1. pre 2 .post	26 26	2.81 3.04	0.363	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.18 3.39	0.253	ns
5 人のため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.35 3.46	0.596	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.41 3.46	0.790	ns
6 その仕事が好き	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.54 3.46	0.696	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.38 3.41	0.897	ns
7 自分のため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.62 3.76	0.344	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.52 3.5	0.919	ns
8 いきがいになる	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.19 3.35	0.462	ns
	2 組	1. pre	29	3.97	0.187	ns

		2 .post	28	3.32		
9 よい大人になる	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.42 3.42	1	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.24 3.46	0.330	ns
10 挑戦するため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.19 3.46	0.234	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.24 3.25	0.969	ns
11 自分に合っている	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.34 3.23	0.468	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.31 3.29	0.918	ns
12 お金のため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.58 3.62	0.850	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.17 3.61	0.044	P<0.05
13 生きるため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.58 3.62	0.837	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.72 3.75	0.842	ns
14 生活のため	1 組	1. pre 2 .post	26 26	3.73 3.69	0.830	ns
	2 組	1. pre 2 .post	29 28	3.82 3.82	0.952	ns

授業実践の前後で有意な差が確認できたのは、働く価値について「お金のため」と回答した 2 組だけの結果となった。

第4章 ワークシートの作成

第1節 ワークシートの作成

第3章で、教科等横断的な学習を通して児童が働くことの意味を考え、食習慣形成に向き合う思考や態度を明らかにするために、食習慣と働くことの意味について問う質問紙を作成した。作成した質問紙は、思考や行動の変容のみを見とるものであるため、「食習慣の変容が確認できた」「コンテンツ実施による変容だ」と裏付けることが十分にできない。

そこで、児童の学習の食やキャリアについての思いや考えを具体的に記述させ、その変容をみとるワークシートを作成し、質問紙とともに実施することで、コンテンツの有効性を明らかにできると考えた。

ワークシートの内容は、以下の通りである。

1 時間目「食事からすくすく育とう」

- (1) これからも育つために食事でおすこと、よりよくしたいことはありますか。
- (2) これから成長するために大切な食事のことで自分のめあてをつくりましょう。

2 時間目「酪農家の仕事」

- (1) どうすれば酪農を続けられると思いますか
- (2) 今日の授業で学んだことや大切さだと思ったことを書いておきましょう

3 時間目「酪農家さんが働くこと」

- (1) 須藤さんは、なぜ酪農の仕事が続いていると思いますか
- (2) 今日の授業で学んだことや大切さだと思ったことを書いておきましょう

4 時間目「わたしが働くこと」

- (1) あなたには、将来の夢やなりたい職業がありますか。ある人は書いてください。
- (2) 梶木（かばき）さんのお話を聞いて、働くことについてどんなことを考えましたか。
- (3) あなたは、なりたい自分に向けて、「何を」「どのように」がんばりますか。

以下、上述の4項目を設定した意図を述べる。

1 時間目の「育つための食事」に目を目けることで食習慣の形成につなぐ意識をもてるようにする。さらに学級活動の特徴である意思決定に関して「食事のめあて」をもとに自覚することで、食習慣への自覚が生まれることを期待している。

2 時間目の「酪農を続ける方法」を聞くことで、酪農家に近い立場から経営努力や工夫を通して児童なりの手立てや方法を考えることが働くことの意義を自覚することにつながる。また「学んだこと」を問いかけることで働くことに関する記述が出てくることを期待した。なおこの「学んだこと」は3 時間目にも問うことで働くことへ目を向けること

ができたかを見取るようにした。

3 時間目の「酪農家の生き方」を考えることによって、困難な状況のもとでも経営を続ける酪農家の姿に心情面から迫り、働き続けることの意味を自覚することができると考えた。さらに酪農家の須藤氏は夫婦で酪農を続けてきたが、須藤裕紀氏は、「動物が好きなこと」が酪農を続けることを支え、妻の陽子氏は「食や命の大切さを伝える」ために酪農を続けている。夫婦で違う視点から働くことに向き合っていることから、児童一人一人が自分にとっての働く意味を考えることの重要に目を向けさせたい。学ぶことや働くこと、そして生きることについて考え、それらの結び付きを理解することや多様な他者と協働しながら自分なりの人生をつくっていくことへの展望を引き出したい。

4 時間目の「なりたい夢や職業」を考え、一人一人の主体的な意思決定に基づく実践にまでつなげ、自分で何ができるか、何をするかを自覚して意思決定に結び付けるために二つの設問を用意した。記述の内容としては、本研究の目的が働くことの意義を「役立ち」に見ることであることから、自分のことだけではなく、他人や環境、未来のことを考慮する記述や、自身が行動していく必要性について考えられた記載がみられることが望ましい。例えば、「学んだことや大切さだと思ったこと」では、「誰かのためにできることをしたい」や「そうすることが大切」などである。「働くことについて考えたこと」では、「地域の人に目を向けていること」「柗木さんのしていることが周りの人のためになっている」などの記述がみられたとき、本研究の目的にせまることができたと判断する。

以上のワークシートを使用し、より詳しく児童の思考にせまり、コンテンツの有効性を明らかにする。なお、使用したワークシートは、巻末の資料 3 に示す。

第 2 節 分析結果と考察

児童の記入内容について事前調査においては、「役立ち」に関して、「あまり当てはまらない」「当てはまらない」と回答していた児童が事後調査において「かなり当てはまる」「ある程度当てはまる」と回答したワークシートの記述を整理した。

(1) 食育に関わる内容

感謝の心につながる記述として、「私は牛乳が好きなので、改めて、牛は大切だと思いました。須藤さんたちにまた質問ができたりしたらききたいです。(B-4)」「酪農家さんたちは、牛を大事に育てているけれど他の人たちにも牛の良さを知ってもらいたいと思って育てているんだなと思いました。これからは、感謝の気持ちを持って牛乳を飲んだり、牛肉を食べたりしたいです。(B-5)」があった。

各自の振り返りを見ると、「改めて、牛乳は大切だなと思いました。牛乳を輸入していな

いということを初めて知りました。これからも牛乳の大切さについて考えたいなと思いました。(B-4)」「酪農家がすごく大変だなとわかりました。それでも、酪農家という仕事をやめないのがすごいなと思いました。(B-5)」のように、社会科で取り上げた厳しい状況の中で酪農を続ける努力や工夫、道德でのそれを支える動物への愛情や食への思いに触れたことが要因となっていると考えられる。

食事の重要性につながる記述として、「牛は牛乳がなくなったら牛肉になんやなとはじめて知り、これから牛乳をいっぱい飲んでほねを強くしたいです。(B-1)」、「話をきいて、須藤さんは本当に牛が大切なんだなと感じました。改めて牛乳をたくさん飲もうと思いました。好きなことをするってすてきだなと思いました。(B-12)」があった。各自の振り返りを見ると、「牛は、こんなに大変なことをしているんだなと思い牛乳を残さずにしようと思いました。(B-1)」、「酪農家の人もしっかり考えているなと思いました。通話したときみんなの意見を言ってさんこうになって力になればいいです。(B-12)」のようにここでも、社会科や道德の学習が背景となっていると考えられる。

児童の食生活が食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに対して、結果として感謝する心や食事の重要性の視点を実現することに酪農家の仕事に触れることが一定の役割を果たすことが明らかになった。

(1) キャリア教育に関わる内容

①職業観の育成の視点

「自然は大切だと思った。自分が好きだと思うことを仕事にできるということが学んだ。(A-2)」「自分のためだけじゃなくて、牛やみんなのために忙しい仕事を続けられているのは、すごいと思いました。(A-3)」のように仕事をするとは、何を実現することかという職業観を育てることができていると考える。その背景には、「らくのうの人はいろいろなくふうを考えていることが分かった。(A-2)」「考え方がちがうだけで働いたのしきやいみがわかってくるのがわかった。(A-2)」と学び、「練習をする。べんきょうをする。」と頑張ることを決めている。また、A-3 は、「牛一頭をそだてるだけで、いっぱいお金がかかり、大変だということを学べた。」「楽しみがもてる仕事をしていたら、つらいことがあっても「チャレンジしよう」という気持ちになれる。ということがわかった。」からこれから「しっかりやりがいのあって、あこがれられる仕事をしたい。」と述べている。

B11 は、「須藤さんたちは、牛が好きでそのよさを伝える。そして、牛とかの見分け方や命の大切を伝えてくれたんだと思います。」「働くことは、大変だし、ミスしたりする人だなと思いました。榎木さんもラジオとかでけっこうミスやしっぱいもあってとてもむずかしいと思いました。」と踏まえて、「料理人になるためには、けんしゅうもあってももちろんしっぱ

いもあるしっぱいは成功の元だからなりたい自分になるためにがんばろうと思いました。」と述べている。

②夢への見つめ直し

B-9 は、「かngo師は、今なりたいけど、梶木さんみたいにもっとなりたいことがあるかなってさがしていきたいと思いました。」となりたい仕事を見つめ直している。その背景には、「酪農で働いている人もいろいろ苦労があるんだなあと思いました。牛乳や牛肉などを食べることも、こうけんになるのかなあと思います。1 ヶ月に何円えさ代でかかっているか知りたいです。」「お話を聞いて、牛のことをほんとに好きで、牛乳のよさを伝えたいと言う思いがほんとに強い方たちなんだなあと思いました。働くってすごく好きなことを仕事にしたなら、こんなに楽しそうに、仕事が出来て、あこがれました。」「梶木さんは、なりたくないって小さい時におもったけど、やっぱり酪農家になりたいって思っていて、この時に、やりたい仕事を見つけてもっとより良くしたい思いで、いままでやっていて、やりたい仕事を見つけたと思いました。」にあるように須藤氏夫婦、梶木氏の働く姿を通じて自分のキャリアを見つめ直す児童の姿が確認できる。

③自ら目標を決めて実践する

「働くってすごく好きなことを仕事にしたなら、こんなに楽しそうに、仕事が出来て、あこがれました。(B-9)」「やりたい仕事を見つけないと思いました。(B-9)」の記述にあるように自ら目標を決めて努力することを酪農家の仕事が視点していると考えることができる。

B-3 は、「酪農の仕事は今、エサ代が高かったり、後継者がいなかったりしてとても大変だということを学びました。」「好きな仕事、合っている仕事だから。家を継ぐ。小さい時から牛が好き。牛乳のよさを他の人たちに伝えたいから。」「牛を育てるのに、こんなに苦労しているんだなあと思いました。つらいことや、大変な思いをしたりしているのに続けられるのはすごいと思いました。」との学びを受けて、「働くのは、とっても大変なんだなあと思いました。自分が働く時に、大変でもあきらめないでがんばりたいと思います。」と考え、そのために「なりたい自分になるために、やりたくないことでもがんばっていっしょうけんめいやりたいと思います。」と決意している。

B-5 は、「酪農家がすごく大変だとわかりました。それでも、酪農家という仕事をやめないのがすごいなと思いました。」「酪農家さんたちは、牛を大事に育てているけれど他の人たちにも牛の良さを知ってもらいたいと思って育てているんだなあと思いました。これからは、感謝の気持ちを持って牛乳を飲んだり、牛肉を食べたりしたいです。」と酪農家の環境の大変さに向き合いながら「これから働いていくなかで、つらい時だってあるとは思いますがその仕事を継続していくことが大切だなと思いました。」と捉え、「これから、野球をしてい

くなかで、一生けん命努力していきたいです。」と決意している。

ここに酪農家が直面する厳しい経営環境に向き合う酪農家の仕事や生き方が児童のキャリア形成に大きく寄与する可能性があると言える。

「なりたい自分」を見定め、自ら目標を決めて実践することにより、働くことや社会に奉仕することの意義の理解や児童一人一人が働く意義や目的を探究し、みんなのために働くことの意義を理解し、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育成することへの酪農家の仕事の貢献が明らかになったと言える。

表 26 変容が確認できた児童 1 組

	1回目の授業	2回目の授業	3回目の授業	4回目の授業
	これから育つために食事で なおすこと、よりよくしたいこ とはありますか。	どうすれば健康を維持されると 思いますか。	今日の授業で学んだことや大切 だと思ったことを書いておきま しょう。	今日の授業で学んだことや大切 だと思ったことを書いておきま しょう。
A-1	▲をできるだけたべ る。のこさん。	ユーチューブですごい 「いまのらくのうのけん じょう」というのをかき さんする	こくさんのものが大切 なのをわかって大事に 食べようと思った。	大変なこともあったけ れどがんばってうしと つきあってうしの感情 があって見てて楽しい しそれをみんなに伝え たい。
A-2	緑色の食品、黄色の食 品、赤色の食品をかた ようすバランスよく食 べる。のこさす食べ る。こはんの間にあま りたべたい。	・エサを自分で作る。 ・国さんのエサをかう。 ・せつ電、ぼ金、近くの うがからエサをもら う。 ・すてられる食品を エサに・日本の物とこう かん	らくのうの人はいろい ろなくふうを考えてい ることが分かった。	自然は大切だと思っ た。自分が好きだと思 うことを仕事にできる ということが学んだ。
A-3	野菜もいっぱい食 べ、バランスのよい食 事をとる。	乳製品をふやす。	牛一頭をそだてるだけ で、いっぱいお金がか かり、大変だというこ とを学べた。	自分のためだけじゃな くて、牛やみんなのた めに忙しい仕事を続け られているのは、すこ いと思いました。
A-4	栄ようのある食事で 健康になって病気に ならない用にします。	草の種をとって畑を作 る。	今の酪農は昔よりも高 齢化が進んでいて、働 きがいなくなってい て、お金もすごくかか るから、一つの問題点 になっていることがわ かりました。	だんだん牧場とかがな くなっていくので、子 どもたちに伝えていっ て、牧場の良さとかも しって、広めて行くこ とが大切だと思いま した。
A-5	まいかいおかしたべ ているから、だされた ものをちゃんと食 べる。	値段をあげる。	数を減らしていかない といけなとはじめてし りました。	みんなにおいしい牛乳 をのんでほしい。
A-6	野菜をもう少し食 べる。黄色の食品ばかり 食べて緑色の食品を あまりたべたことない 気がする。(少しはあ る)	募金・自家発電・日本 でエサを作る・現状拡散 ・学校で育成・酪農を伝 える・近所からエサを もらう。	牛乳をみんなが好き なアイスやケーキに変 えて売れば済む。どの 牛が一番牛乳をだしてい るか観察して、あまり 出さない牛はボツ。牛 の数を制限。	一番合う仕事だから。 40年働いている。7時 間ほど寝ている。20人 ぐらい働いている。子 どものころから好き。 牛乳をいっぱい飲んで ほしい。
A-7	牛乳をさいきんめっ ちのむからもっとの んでいこうと思いま す。家でこはんをのこ すことが多かったの でこさないように かんしよくしたいと思 います。	太陽光にして、電気代 をせつやくする。牛乳 パックを客を引き寄せ つようなパックにする。 自分の子供をつかって 人件費をなくす。乳し ほり体験をする。	牛を育てるだけでも、 お金がたくさんひつ つうなことをしました。	人がたくさんじゃない けど少し多いぐらいが いいと思いました。人 が少し多いほうがき んと生活リズムがく ずれることなく、健康 で生活を送れる。
A-8	好ききらいをしてい ないから、好き嫌いを しない。	エサ代を値下げする。 若い人に酪農の大切 さを伝える。電気代の 節約、自家発電、お金 だけではなく日本の 物と交換。日本でエ サを作る。近くの 農家からエサを もらう。すてられ る食品をエサに。小 、中学校などで育 てる。募金。	アイスクリームなど の加工食品とかエサ を他のものにする とか工夫があるん だと思いました。	大変なこともあるけど 牛が見れるカフェ があって牛や動物が 好きだから仕事を 続けている。

表 26 変容が確認できた児童 2 組

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	
	この年から毎週土曜日に通塾がなくなり、よりよい環境になったと感じています。	子どもたちは通塾がなくなったことで、よりよい環境になったと感じています。	今年度の通塾で子どもたちの成長が感じられ、とても嬉しく思います。	通塾では、なやみ通塾の仲間と一緒に学ぶことができました。	今年度の通塾で子どもたちの成長が感じられ、とても嬉しく思います。	通塾では、なやみ通塾の仲間と一緒に学ぶことができました。	
B-1	この勉強を毎日牛乳をのもうと思いました。	後継者をふやして乳牛をブランド化して酪農をやっていく。あとSNSで後継者をふやす。	牛は、こんなに大変なことをしているんだなと思う牛乳を搾すにしようと思いました。	小5年生でお父さんの次につきたいと思って働いている。牛がさくを破ってにげもともと農家で働いている。あつし時もさむいとときもがんばって働いている。	牛は牛乳がなくなったら牛肉になんやなとはじめて知り、これから牛乳をいっぱい飲んでもねを強くしたいです。	小中学生で将来にするかきめなやだめだから、そこから母がらくのうしていたから自分もらくのうをしようと思ったからいまらくのうをしている。	プロサッカー選手になるためにはもっと勉強をがんばらなきゃいけないと思いました。
B-2	食べる量をもっと増やしたいと思いました。	金持ちの人をやとう。金持ちの人ほ集。	牧場では、全然人もお金もないことが分かりました。		牛を育てる大変さとか育てているなかでの楽しさなどをすることが出来ました。売上金がたくさんある。1億5000万だったりもすごい金がかかるとも思いました。	桜木さんは、自分がもともとしゃべるのが好きでラジオを始めたけどグズなどをよく読んで自分がしゃべるのが好きすぎて自分ばかりしゃべっちゃうというのかもしれないと思いました。	
B-3	牛にゆうちゃんと飲む、チーズを食べる。おやつを食べ過ぎない。	後継者をさぐすために見学させたり、こうこうを作ったりポスターを作って店とか町かにはる。牛乳を使っていろいろなレシピを出す。牛メニューを給食に出す。	酪農の仕事は今、エサ代が高かったり、後継者がいなかったりしてとても大変だということを知りました。	好きな仕事、合っている仕事だから、家を建てる。小さい時から牛が好き。牛乳のよさを他の人たちに伝えたいから。	牛を育てるのに、こんなに苦労しているんだなと思いました。つらいことや、大変な思いをし続けているのに続けられるのはすごいと思いました。	働くのは、とても大変なんだなと思いました。自分が働く時に、大変でもあきらめないでがんばりたいと思います。	なりたいたい自分になるために、やりたくないことでもがんばっていつかうけぬめいやりたいたいと思います。
B-4	苦手なものを、がんばって食べてみる。野菜などの栄養があるものをいっぱい食べる。	ポスターをつくって、楽しくなりそうなお仕事を考える。小・中学校に牧場見学へ誘うことを伝える。	改めて、牛乳は大切だと思いました。牛乳を輸入していないということを初めて知りました。これから牛乳の大切さについて考えたいなと思いました。		私は牛乳が好きなので、改めて、牛は大切だと思いました。頑張る人たちにまた質問ができたらしらさきたいです。	桜木さんのお話を聞いて、働くことは大変だと知りました。自分が女優さんになったときは、桜木さんの言葉を思い出して働きたいと思いました。	
B-5	自分の好きなものばかり食べているだけじゃなくて、しっかりとバランスの良い食事をしていきたいです。さらに、おかしをいっぱい食べすぎないようにしたいです。	牛乳を外国に輸出する。	酪農家がすごく大変だなとわかりました。それでも、酪農家という仕事をやめないのがすごいなと思いました。	酪農家さんたちは、牛を大事に育てているけれど他の人たちにも牛の良さを知ってもらいたいと思って育てているんだなと思いました。これからは、感謝の気持ちをこめて牛乳を飲んだり、牛肉を食べたりしたいです。	これから働いていく中で、つらい時だってあるとは思いますがその仕事を継続していくことが大切だと思いました。	これから、野球をしていく中で、一生けん命努力していきたいです。	
B-6	好ききらいをなおす。牛乳を飲む、やさいを食べる。給食はんをしっかりと食べる。あまいものをたべすぎない。	なるべくたてものを、強くて病気やクマから守る。ポスターで人を集める。牛にゆうを使った、レシピを作ったり出す。インターネットでよさを伝える。エサを自分でつくる。	牛にゆうは、とても大切なんだなと思いました。理由は、クレーンにもたべられなくなるし、お肉もあまりたべられなくなるからです。	うしのおせわは、たいへんだなと思います。理由は、だっそうするからうしは、いがいとずばしっこかったし、おいしく食べるのがたいへんだっていうことを学びました。	うしをそだてるのは、いがいたいへんだし、えさとかあげるのたいへんだと思うのに、やすます。うしをそだてるのはすごいと思いました。	ネイルをするのをかわいく、じょうずに、ネイルをするのをがばります。	
B-7	きらいな食物を食べる。	すごく特別な牛にゆうを作る。たとえば名前をはわすれたけどおながいなくならない牛にゆう(じっさいにある)水代がたかいならてんねん水をつかい水代の分をエサ代にあてる。牛にゆうを作ったレシピをだして牛にゆうを売らせる。	さいしよは牛にゆうはいらないと思ってたけど、やっぱり牛にゆうは大変だと思いました。	このしごとは、お金がかかったり牛のおせわをするという大へんなしごとだけど楽しいいばもんもあって楽しそうなしごとなだと思いました。牛のもようってどんなかんじなのかそうそうがつかないのでもわかってみたいです。			

表 26 の続き

B-5	もっと食べていく、そしておのこしは、しない。	ほおしてもらう。小学校の給食にだす。	ときどきちがうエサにしている。牛乳の料理をだす。			むずかしいこともあるけどもあるけどのしいからつづけている。自分のやりたいことをやる。	サッカー選手になりたいからたくさんれんしゅうをまじめにたのしくする。
B-6	牛乳があまり好きではないけど、学校だけじゃなくて、家でのもヨーグルトをのみ続ける。肉を少しずつ量を増やしていきたい。	ぼく達の良さを知ってもらうために、ぼく達で牛乳の加工食品を売る。地いきの方々にはぼく達見学してもらって、ぼく達の良さを伝える。	酪農で働いている人もいろいろ苦労があるんだなあと感じました。牛乳や牛肉などを食べることも、こうげんになるのかなあと感じます。1か月に何円まで代わかっていくのか知りたいです。		お話を聞いて、牛のことをほんとに好きで、牛乳のよさを伝えたいと思うのがほんとに強い方たちなんだなと思いました。聞くってすごく好きなことを仕事にしたら、こんなに楽しそうに、仕事が出来て、あこがれました。	桜木さんは、なりたくないって小さい時におもったけど、やっぱり酪農家になりたいって思っていて、この時に、やりたい仕事を見つけてもっとより良くなりたいと思って、いままですべて、やりたい仕事を見つけたと思っています。	かんご師は、今なりたいたけど、桜木さんみたいにもっとなりたいことがあるかなってさかしてきたいと思っています。
B-7	いつも、こいもの食べたくなってしまうから、もうちょっと、バランスよくしたいです。	輸入するのでもいいけど、国産でがんばりたい。	牛乳がないと、みんなが困ったりけど牛を育てる人も困るから、牛乳が大切だと知りました。		牛を飼っていることでわたしたちが健康になれるのは、酪農家さんと牛さんががんばってくれているからだと分かりました。	やりがいがあるって、みんなを笑顔にできて、やさしくできる働く人になりたい。	まずは自分の夢を見つけて、みんなを笑顔にしたいです。
B-8	あまり、それだけの物を食わずにしっかりと栄養を取る食事になおそうかなと思います。	近くの公民館とかに、酪農のせんでんポスターをはりつける。そして働いてくれる人を入れる。	酪農で働いている人もエサ代や水代が高くて続けていけないことが分かりました。		須藤さんたちは、牛が好きでそのよさを伝える。そして、牛とのかの関わり方や命の大切を伝えてくれたんだと思います。	働くことは、大変だし、ミスしたりする人だなとも思いました。桜木さんもラジオとかでけっこうミスやバグもあってとてもむずかしいと思いました。	料理人になるためには、けんしゅうもあってもちろんしつぱいもあるしつぱいは成功の元だからなりたいた自分になるためにがんばろうと思いました。
B-9	おかしを食べすぎないこと。バランスのいい食事をする。	牛乳が好きな人を集める。牛に興味をもってもらう。そのためにイベントをする。	酪農家の人もしっかり考えているなあと感じました。電話したときみんなの意見を言ってくれて力になったらしいです。		話をきいて、須藤さんは本当に牛が大切なんだなと感じました。改めて牛乳をたくさん飲もうと思いました。好きなことをするってすてきなと思いました。	働くことはむずかしいんだなとも思いました。やめずにすこしなとも思いました。わたしもこんな大人になりたいなとも思いました。	みんながきれいでいれて楽しくすごせるようにがんばる。
B-10	食べる量を少し減らす。(食べる量はときどき)		しょうらいぼくじょうのおとをつづいていった。やられたから。お金少なめおくらめない。牛にゆうをださない牛は肉になる。1億円くらいもうかって1億円くらいのおしゅつ。		牛をかわいと思う人の心が理かいてきました。そうやっていいと思う人が増えてきたらいいと思います。生き物を育てることも、ほかの仕事もおくらめるのはよくないと思います。	プロゴルファーになって、もれもれしくプレーできるように日ごろの行いを少しづつよくしていこうと話聞いて思いました。	ぼくはゴルフが好きで、中学じゅけんもしたいので、ゴルフとべんきょうを両立してがんばりたいとおもいます。
B-11	牛乳を、いつもより飲んで、おかしを食べすぎない。	せんせいで円安を打かいしてくるような人に、投票したり、SNSやエックス、ティックトック、ユーチューブ(インターネット)で、酪農家の現状を知らせる。(楽しさ)	今日の授業で、酪農家が少なくなっているということや、いろいろな工夫をしていることを、学びました。		わたしは、牛のそん在や酪農家はとても、大切なんだなと思いました。	牛を毎日世話したりしたいへんだけど、じぶんにかできないことをがんばることがわかりました。	英語を家ぞくよりしゃべれるように力をつけたい。

第 5 章 全体結論及び今後の課題

1 結論

本研究では、キャリア教育の視点を取り入れ、小学校第 5 学年社会科「食料生産」の単元、学活（２）、道徳、学活（３）との教科等横断的なコンテンツを開発し、質問紙やワークシートから妥当性を明らかにした。酪農家の仕事の側面から、感謝の心の内容を獲得し、酪農家の生き方が、児童のキャリアにつながる示唆を得ることができた。

また、質問紙調査やワークシートの結果から、本研究で作成したコンテンツは概ね妥当であることが明らかになった。

2 今後の課題

食育の側面に重点を置くために学活（２）の指導を設定した。担当いただいた先生の特別活動の指導について理解と藤本の支援が十分でなく、意思決定に至る過程に課題が残った。同じようにキャリア教育により密接につなげるために設定した学活（３）の時間においても意思決定に結び付ける指導の充実を図る必要がある。さらに、栄養教諭の未配置校であり、日常的な食育指導が実施されていないことも食習慣形成につなげる点において課題が残った。今後、特別活動の指導を充実させることで食習慣とキャリアを実現させ、相互の高まりを支援するために栄養教諭の指導や給食の時間の指導の充実を図る必要がある。

また 4 時間の授業を教育活動において生み出すことにも大きな課題がある。社会科の授業において酪農を 1 学期に取り上げて児童の変容をていねいに分析することも大切となる。さらに、食料生産の視点から 5 年生の社会科に限定する形で指導の機会を作ってきたが、キャリア発達から考えると、中学における指導も検討する必要がある。中学年においては、地域の産業の視点から酪農を取り上げることが可能である。

また、本研究では、授業実施前後の児童の変容から、作成したコンテンツの有効性を検討したが、食習慣の形成は、体験したり学んだりした直後だけではなく、ある程度長期的・継続的なものである必要がある。そのため、今後は児童の追跡調査を行い、変容の持続性についても明らかにする必要があると考える。さらに、小学校 6 年生以降においてキャリアをどのように形成していくのか「キャリアパスポート」の分析等も必要があると考える。

加えて、これまで酪農教育ファームが児童に提供してきた「食やしごと、いのちの大切さ」といった教育的な価値に経済活動や経営努力という新たな価値を見出すコンテンツ開発を行うことの可能性が示唆されたことは大きい。以上の課題を踏まえ、今後研究を進めることで、更に的確に、食習慣とキャリアの相互補完的・一体的な実現における酪農の価値を明らかにすることができると思う。

なお、キャリア教育の実践に当たっては、一人一人の児童が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるようにすることが求められる。その際、身に付けさせたい資質・能力の中核となるのは、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の四つの能力によって構成される基礎的・汎用的能力である。

引用・参考文献

- 1 文部科学省（2022） 小学校キャリア教育の手引き - 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）準拠 - p.6
- 2 文部科学省（2017） 小学校学習指導要領解説 総則編 p.101
- 3 前掲 2 p.102
- 4 文部科学省（2017） 小学校学習指導要領解説 特別活動編 p.52
- 5 前掲 4 p.58
- 6 前掲 4 p.59
- 7 文部科学省（2017） 小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 p.52
- 8 宮田延実（2012）「小学生の希望職業からみた職業的発達の検討キャリア教育研究 30 pp.53-60

資料

資料1 指導案

第5学年 学活（2）指導案

1. 題材 食事から健康な体を考えよう

2. 本時の学習

（1）ねらい

・体がよりよく成長するためには、調和のとれた食事、適度な運動、休養・睡眠が必要であることを理解した上で、どのような食生活を送ったらよいかを考え、判断することができる。

（2）本時の展開

	児童の学習活動・予想される児童の反応	○支援及び留意点 ◆評価	資料
導入 (5分)	1 身長や体重の増え方を見て、成長するために必要なことを考えるようにする。 すくすく育つために大切なことは何かを考えよう	○1年生時の平均身長・体重を知り、自分の体が成長してきたことに気付かせる。	・身長・体重の成長資料
展開 (30分)	2 どうして大きくなれたのか考える。 ・毎日食事を食べ栄養をとっているから。 ・よく寝ているから。 ・運動して体を鍛えているから。	○毎日の生活を振り返り、体の成長について大切なことは、食事、休養（すいみん）、運動であることに気付かせる。 ○「めあて」に「食事から」を付けたし、自分の食生活についてよりよくすること（食べる量、バランス、好き嫌いなど）はないか考えさせる。	
	3 どんな食事がよいのか考える。 ・今まで習った赤、黄色、緑の食品がそろえばいいんだよ。 ・給食には、赤、黄、緑の食品がそろっているな ・給食は、赤・黄・緑のバランスもいいよ	○これまで習ったことを思い出させながら、成長するためには赤色の食品（体を作るものになる）、黄色の食品（熱や力のもとになる）、緑色の食品（体の調子をととのえる）が必要なことを確認する。 ○給食献立表から赤、黄、緑の食品を見つけ、栄養バランスがよいことに気付かせる。 ○バランスよく食べる、残さず食べることの大切さを確認する。	・給食献立表
	4 休養や睡眠、運動の役割を考える。 ・休養や睡眠は疲れをとり、成長に必要なんだ ・運動することによって強い体がつくられることを伝える。	○睡眠時間中に多量に分泌される成長ホルモンの働きを知らせ、10時間程度の睡眠が必要であることを知らせる。 ○運動して骨に刺激を与えないと骨が強くないことを知らせる。 ○たんぱく質や脂質などは十分とれているのに対し、カルシウムは不足しやすいので給食に毎日牛乳が出ることを知らせる。 ○カルシウムを含む食品を食べて運動することが大切であることを確認する。	・睡眠と成長ホルモンのグラフ ・骨の断面図
まとめ (10分)	5 体をよりよく成長させるため食事の視点からどうしたらよいかめあてを記入し、発表する。	○自分の生活をよりよくしていこうとする意欲を育てるために、めあてを「何を」「どのように」の視点から具体的に立てさせる。 ◆具体的で実行性のあるようなめあてを立てている。 ○次の時間は、給食に毎日出てくる牛乳を生産している酪農家の仕事について学習することを紹介する。	・ワークシート

酪農を取り巻く現状と酪農家の取組を通じて食料の安定確保について考える。

主な学習活動	指導上の留意点・児童の反応	資料等
1. 社会科「日本の食料生産の学習」を振り返る。 「食料を輸入に頼っていることでどんな影響がありましたか」	○食料自給率のグラフを示して多くの食べ物を外国から輸入していることを確認する。 ・相手の国で病気が流行ったり、関係が悪くなったりすると輸入できなくなるかもしれない ・農業で働く人がますます減る ・輸出国が農地のために森林を伐採してしまう	▽日本の食料自給率
2. 牛乳がなくなると困るかについて話し合う。 「牛乳が飲めなくなると困りますか」	○給食に毎日牛乳が登場する理由（カルシウムを多く含んでいる）や加工食品の視点から考えるようにする。 ・給食に毎日出るから必要 ・チーズやバターが食べられなくなる ・海外から輸入したらいい	
3. 酪農が続けられない状況について話し合う。 「牛乳は、日本で100%生産されています。でも、55.8%の酪農家が「経営を続けられない」と言っています。どうしてでしょう」 ・エサ代がこんなに高いなんて ・生乳販売で人件費が出ない	○牛乳は国産 100%であるのに酪農が続けられない現状を比較しながら輸入に頼る飼料の問題に気付かせる。 ・農業の学習で習ったように跡継ぎがいない ・コロナでみんなが牛乳を飲まなくなった ・牛を飼う時の費用がいろんなものの値上げで困っている ・ニュースでエサ代が高くなっていると聞いた ○牛乳は 100%国産ですが、飼料は輸入が多いため、飼料自給率を考慮すると牛乳・乳製品の品目別自給率は 25%（平成 30 年度）であることを伝える。	▽酪農が続けられない資料
「エサ代は上がっているか、千葉県館山市にある須藤牧場の経費を見ましょう」	○経費の割合を表すグラフから、その変化を読み取る。 ・エサ代が 61%から 81%にあがっている ・クレイニングは、2808 円から 4009 円になっている ・エサ代がこんなに高くなるんだ ○エサは海外からの輸入に頼っていることを伝え、外国に頼ることで影響を受けていることを確認する。	▽エサ代の割合グラフ ▽資料の値段 (PP)
4. 経営努力の姿に触れる。 「みんなが酪農家だったらどんな工夫をしますか」 「酪農家はどんな工夫をしているか紹介します」	○酪農を続ける工夫を話し合うことで経営努力に目を向けるようにする。 ・牛乳の飲んでもらうキャンペーン ・飼料を国産のものにする ○「飼料の自給率をあげる」という意見には、農地の確保の問題や耕作機械の燃料代の経費が必要となることについて示す。 ○飼料におからを使う、アイスクリーム等の販売による 6 次産業化（須藤牧場）、飼育頭数を減らすことで一番効率のいい飼育（神奈川県石田牧場）の例を紹介する。	○アイスクリーム店 ○石田牧場
5. 海外にエサを依存する状況から食の安全について気付く。 「酪農だけのお話ではないですね、これから何が大切になると考えますか」	○自給飼料を作ることの大切さや日本の農業を守ることの重要性に目を向けるようにする。 ・日本の農業を大切にすること ・国産のものに関心をもつ	
6. 今日の振り返りをする。	○ワークシートに振り返りを書く。	▽ワークシート

酪農家の働きがいや酪農を続ける思いに気づき、働くことの意味についての心情を深める。

主な学習活動	指導上の留意点	資料等
1. どうして働くのかを交流する。 「大人はどうして働くと思いますか」 2. 酪農家の仕事への思いを話し合う。 「前の時間に学習した酪農家の須藤さんはどんな気持ちで働いていると思いますか」 3. 須藤さんは、なぜ酪農を続けているか考える。 ・お父さん：動物と一緒にいることが好き ・お母さん：食べ物のことを考えてほしい 4. 須藤さんに質問する。 5. 今日の振り返りをする。	○働くことの意味や価値について話し合うことによって、本時の方向付けをする。 ○須藤牧場の様子と共に、酪農家の1日の仕事を紹介し、酪農家の仕事について考えたことを交流する。 ・たいへんな仕事だ ・どんなことがやりがいなのか ○前時の学習を振り返り、酪農家が苦しい状況下で工夫していることを確認する。 ○「なぜ酪農を続けているか」を問うことで大変な状況の中でやり続ける思いに目を向けられるようにする。 ○zoomで須藤さんの「思いのもと」について交流する。 ○酪農家の2人の「思いのもと」が異なっていくことから一人一人が働くことを考えることの大切さに気付かせる。 ○須藤さんのお話から考えたことやもっと聞きたいことを質問するように促す。 ○本時の学習で自覚が深まったことを意識させる。	▽パワーポイント ▽ワークシート ▽Zoom

食や命にかかわる人の働く姿から私の夢を描く 5年 学活(3) キャリア教育

目標：桜木さんの働くことに対する思いやこれまでの学習をふまえて、働くことは誰かのためになる

ことをであることに気づき、これからどんな目標をもって生活していくかの目標をもつことができる。

主な学習活動	指導上の留意点	資料等
1. 将来の夢を交流する。 「前の時間では、それぞれの人の思いを大切にしておくことを考えてきました。今日は、5年生のみなさんが自分が働くことを考えてもらうために毎日給食に出てくる牛乳を生産している酪農家と話し合いました。」	○友達の話ややりたい仕事を聞くことで自分の夢を自覚できるようにする。 ○将来の夢ややりたい職業がまだない児童は、それを考える時間になるとよいことを伝える。	▽ワークシート
2. 桜木さんがどのような思いをもって働いているかを考える。 想定される質問 ・仕事で大変なこと、やりがい ・やめようと思ったことはないか	○桜木（おばき）さんから働き続けることにある思いや願いを語っていただく。 ○児童からの質問や担任からの問いかけをしながら進めるようにする。	▽パワーポイント ▽桜木さんとzoomで交流
3. FMラジオのパーソナリティのことを通じて、十勝の魅力伝えたいという桜木さんの思いに触れる。 予想される反応 ・プライドをもっているんだ ・地域を大切に思っている ・カッコいいな	○「どんな思いで仕事をされているか」のシートを提示して、農家の魅力や地域のよさを伝えたいという桜木さんの思いを語っていただく。 ○ラジオ局、経営など児童が理解しにくい場合は、補足説明する。 ○児童からの質問、なければ「この活動は続けたいですか」と聞くようにする。	
4. 働くプロフェッショナルについて考える。	○「私にしかねない酪農家になる！」に込められた思いを語っていただくようにする。	
5. 今日の振り返りをする。	○プロフェッショナルの働き方を通して自分の夢を描くことや自分はどんなことをがんばりたいかを考え、なりたい自分にむけて、「何を」「どのように」がんばるか具体的にワークシートに書くようにする。 ○働くことを一人一人が考えることが大切であることを確認する。	

資料2 質問紙

2023事前調査

5年()組()番 名前

次の質問に、当てはまるものを1つ選んで番号のらんに○をつけてください。

		1 かなり 当てはまる	2 ある程度 当てはまる	3 あまり 当てはまらない	4 当てはまらない
1	牛乳を生産する仕事は、私たちとつながりが深い。				
2	酪農家は、牛乳を飲む人のことを考えている。				
3	酪農は、私たちに必要な仕事だ。				
4	酪農家は、牛を飼い続けるために工夫や努力をしている。				
5	酪農の仕事は、人のためになる。				
6	給食は、好き嫌いしないで何でも食べている。				
7	給食は、栄養のバランスがよい食事である。				
8	牛乳を飲むことが大切だ。				
9	給食は、いつも残さず食べている。				
10	食べ物を大切に思っていて食べている。				
11	給食を支えてくださる方々(生産者や調理員さんなど)のことを考えて食べている。				
12	給食を残すときに、もったいないと思う。				
13	食事の時に食べ物がどこで育ち、 どのように運ばれてきたのかを考える。				
14	食べることができる量を買う。				
15	地元で生産されたものを買う。				

大人になってあなたは、何のために働くのか、以下のことに当てはまりますか。

		1 かなり 当てはまる	2 ある程度 当てはまる	3 あまり 当てはまらない	4 当てはまらない
1	家族のため				
2	他の人に頼られる				
3	国のため				
4	恩返し				
5	人のため				
6	その仕事が好き				
7	自分のため				
8	いきがよいになる				
9	よい大人になる				
10	挑戦するため				
11	自分に合っている				
12	お金のため				
13	生きるため				
14	生活のため				

資料3 ワークシート

1 時間目学活（2）のワークシート

食事からすくすく育とう



5年 組 番 _____

これからも育つために食事でおすこと、よりよくしたいことはありますか。

これから成長するために大切な食事のことで自分のめあてを作しましょう

何を	
どのように	

自分のめあてを振り返ってみましょう

1月15日の週	
1月22日の週	
1月29日の週	
2月5日の週	



酪農の仕事

5年 組 番 _____

どうすれば酪農を続けられると思いますか

今日の授業で学んだことや大切だと思ったことを書いておきましょう

3時間目道徳のワークシート



酪農家さんが働くこと

5年 組 番_____

須藤さんは、なぜ酪農の仕事が続けていると思いますか



今日の授業で学んだことや大切だと思ったことを書いておきましょう

4 時間目学活（3）のワークシート

5 年生_____

あなたには、将来の夢やなりたい職業がありますか。
ある人は、書いてください。

梶木(かばき)さんのお話を聞いて、働く
ことについてどんなことを考えましたか



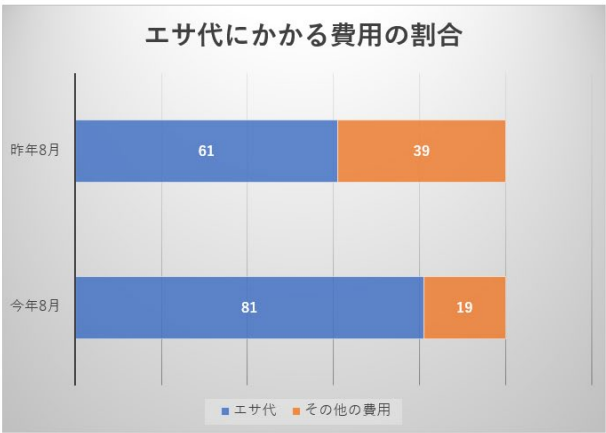
あなたは、なりたい自分にむけて、「何を」「どのように」がんばりますか。

資料4 授業に使った資料

資料4-1 社会科



資料4-2 社会科



須藤牧場調べ

牛乳を売ったお金のうちエサ代にかかる費用。
その他の費用で電気代、ガソリン代、人件費
などを出すとほとんど残りません。

資料 4-3 社会科



クレイングラスアメリカ産
1ブロック 50kg

昨年11月 2808円

今年11月 4009円

須藤牧場調べ

資料 4-3 社会科

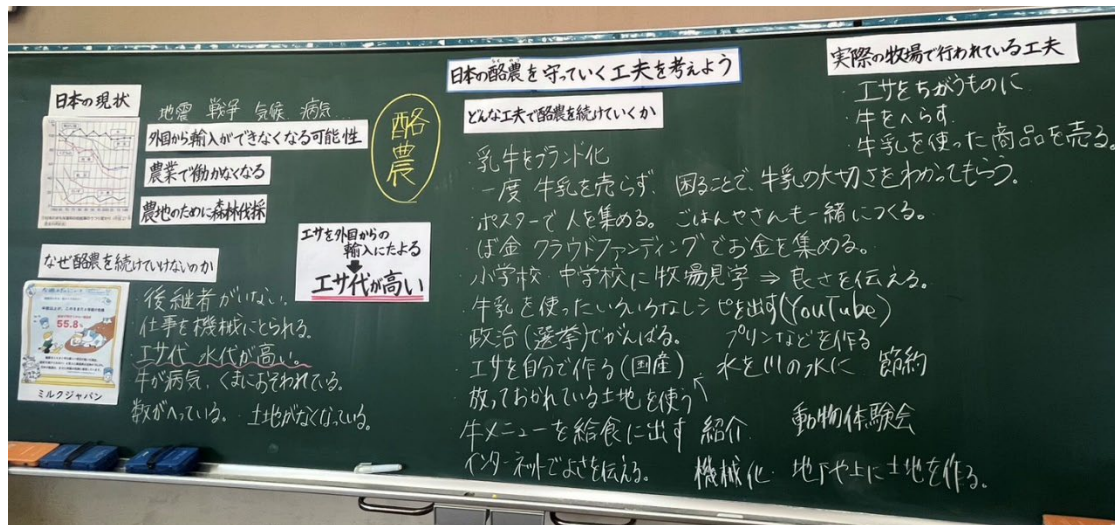


須藤牧場



須藤牧場オンラインショップ

資料 4-4 授業板書（社会科）



資料 4-5 道徳



資料 4-6 授業風景（道徳）



資料 4-7 学活（3）

どんな**思い**で仕事をされているのですか？



酪農が続けられる地域を元氣したい